

令和6年度第1回北区おたがいさま地域創生会議 会議録

1 開催日時 令和6年8月22日(木) 午前10時00分～11時56分

2 開催場所 北とぴあ 7F 第二研修室

3 議 事 1. 第1層生活支援コーディネーターより

(1) 令和6年度 第1層生活支援コーディネーター活動計画

① 3圏域地域包括ケア連絡会予定(案)

② 第2層生活支援コーディネーター活動報告

小原委員

事務局担当

2. その他

4 出席委員	藤原佳典会長	碓井 亘委員	大場庸助委員
	阿藤 護委員	岩脇彰信委員	平井孝明委員
	小松栄美子委員	大場栄作委員	卜部吉文委員
	熊木慶子委員	小原宗一委員	関谷幸子委員
	村野重成委員	尾本光祥委員	寺田雅夫委員

【事務局】

それでは、定刻となりましたので、ただいまから東京都北区おたがいさま地域創生会議の令和6年度第1回目の会議を開催いたします。

資料の確認をさせていただきたいと思います。皆様のお手元には、事前に資料1から資料7までを送付させていただいております。

まず、資料1が委員名簿、資料2が北区おたがいさま地域創生会議の設置要綱、資料3が北区における地域ケア会議と協議会の資料、資料4が令和6年度第1層生活支援コーディネーターの活動計画、資料5が令和6年度3圏域の地域包括ケア連絡会の予定（案）、資料6が生活支援体制整備事業、第2層生活支援コーディネーターの活動報告、資料7が地域課題の見える化についてです。

また、本日、ご案内のチラシを2枚ほど配らせていただきますので、こちらについては、最後、事務局からお話をさせていただきたいと思います。

以上でございますが、ご不足がございましたら事務局へお申しつけください。

それでは、ここからの議事進行については会長にお願いいたします。なお、この会議は公開となっておりますので、会議の記録を取らせていただいておりますので、発言の前には氏名のほうを名のっていただきますように、ご協力のほどよろしくお願ひします。

それでは藤原会長、よろしくお願ひいたします。

【会長】

それでは、議題に入りたいと思います。

まず、第1層生活支援コーディネーターより、令和6年度の第1層生活支援コーディネーターの活動計画について、ご説明をいただきたいと思います。

それでは、社会福祉協議会の委員、続きまして事務局からご説明をお願いいたします。また、ご質問、ご意見につきましては、資料の説明後にまとめてお受けいたしたいと思ひます。

それでは、よろしくお願ひいたします。

【委員】

ではまず、現場で今、1層のコーディネーターがこちらにおりますので、お手元の資料と画面のほうを見ていただきながら、ご説明を差し上げたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

【生活支援コーディネーター】

後ろから失礼いたします。私、北区社会福祉協議会で第1層の生活支援コーディネーターをやっております。よろしくお願いいたします。それでは、着座にて失礼いたします。

お手元のほうの資料にもお配りさせていただいておりますが、パワーポイントのほうを使わせていただきながら、こちらのほうの第1層生活支援コーディネーターの活動計画と、あと、現在もう既に動いておりますので、進捗状況などをお伝えできればなと思っております。

令和6年度第1層生活支援コーディネーターの計画ということで、重点的に取り組む計画を五つ立てさせていただきました。4月からもう既に取り組み始めております。

1番に挙げた2層生活支援コーディネーターのヒアリングですが、4月、5月に全てもう終了いたしました。

2番目で2層の動きを少しでも見える化し、分析等につなげていければと思って計画をしておりましたので、今回、ヒアリングで見えてきたことは、2層の生活支援コーディネーターの方々の動きも少しご説明しながら、ちょっとお話しできればなと思っております。

現在、16の高齢者あんしんセンターに1名ずつ、2層の生活支援コーディネーターの方々がいらっしゃいます。こちらのグラフは、生活支援コーディネーターの方々の経験年数を令和5年度、令和6年度で比較したものになります。令和5年度までは、地縁組織である町会・自治会さんとか、民生委員の方々と顔のつながりがあるセンター長の方々が、生活支援コーディネーターになっていらっしゃる場合が多くて、16名中6名いらっしゃいました。

本年度は、長く生活支援コーディネーターとして活動されていた方々が、内部異動などもあり交代となりまして、センター長と兼任されているコーディネーターの方々は3名に減少、逆に6名が新しい生活支援コーディネーターとして、今、活躍されています。

新しい生活支援コーディネーターの方々も、包括の職員としては職歴のある方ばかりなんですけれども、やはり皆さんのお話を伺うと、個別ケースで関わることはあっても、地域の方々とケース以外のお話をする機会がとても少なかったというふうに伺っています。改めて地縁組織の方々や社会支援の方々にご挨拶をしながら、関係づくりをしながら、今、活動されているというふうに伺っております。

生活支援コーディネーターの仕事は、包括の仕事の中でも、なかなか内部引継ぎも難

しいというふうに皆さんおっしゃられます。先日、コーディネーターの研修も行いましたけれども、包括内だけではなくて、横の16の包括支援センターの皆さん方、それぞれ協力し合いながら、ベテランの生活支援コーディネーターの方々にもご協力いただきながら、グループワークのほうもさせていただいて、地域づくりに努めていきたいと考えております。

こちらの図は、毎年2層の生活支援コーディネーターの皆さん方に、この1年、重点的に取り組みたい事項を三つから五つ挙げてもらって、それをグラフにしたものですね。横軸が高齢者あんしんセンターの数になります。少しだけ、ちょっと多かったものを見ていきたいなというふうに思っているんですけども。一番多かったのは、新規居場所の立ち上げというところで、七つのあんしんセンターの皆さん方が声を上げていただいています。

現在、区の事業で伴走支援を受けていらっしゃるところはとても多いので、新しい場の立ち上げに向けて、生活支援コーディネーターだけではなくて、センターを挙げて取り組んでいらっしゃるところが多いからということが、影響しているかなというふうに思っております。

こちらのほう、フェイスブックのまとめで、2層生活支援コーディネーターの方々の動きを少し紹介させていただいているので、ちょっと飛んでなんですけど、資料6のほうの4番目ですか。後ろのほうから1枚めくっていただいたところにあるんですけども。こちらのほうでも、新しい場の立ち上げ事例のほうを一つ紹介をさせていただいています。滝野川エリア編、地域でハードル低く集える場の模索という形で、今回、フェイスブックでも紹介させていただきました。

病院のほうは、無料で場所として提供していただくことができたので、地域で集える場をつくれなにかということ、今、ちょっとみんなで考えている最中というような記事になっております。ここのフェイスブックの記事では病院までしか書かれていないんですけど、具体的に言うと滝野川病院さんです。

もともとは、コロナ前は滝野川病院さんが、土曜日が休診日なんですね。その日を使って、同じ滝野川病院さんの法人である滝野川西高齢者あんしんセンターの職員さんが、直営のサロンのほうを月に1回ですかね、開催していたというふうに伺っています。とても何か地域の方々に大人気で、一番初め、病院の受付の、病院の本当に受付の待合室みたいなどころに、三、四十人集まっているようなサロンだったというふうに伺ってい

ます。ただ、コロナになってしまって、病院は当然使えないということで、ここがなくなって、地域の皆さん方も寂しい思いをされていたかなというふうに思っています。

今回、以前のように職員の方々が直接、サロンでプログラムを提供するというところは難しいんだけど、地域の人たちに開放することができるので、いい居場所をつくれないうご提案のほうをいただきました。

滝野川病院は、滝野川西高齢者あんしんセンター、あと、飛鳥晴山苑の高齢者あんしんセンター、十条台の高齢者あんしんセンターのちょうど境目のエリアになっています。地域の人にとっては、境目と言われてもあまり関係ないのかなというふうに思うんですけども、本当に病院というと、地域の人たちにとってはランドマーク的な、誰でも、あそこねというふうに分かる場所になっているので、町会・自治会さんですとか、あとは包括支援センターとか、そういう枠も超えて、地域の人たちと一緒にハードル低く集える場がつかれるのではないのかなというふうに思っています。

今、まだ、そういうあんしんセンターの皆さん方と計画をしていて、9月に1回目の地域の人たちもお呼びをして、ちょっと話合いのほうを進めていきたいなという準備をしているところなんですけれども、地域の人たちにしてみれば、ひょっとして以前のように包括さんがやってくれたら、私たち、行って楽しいのにみたいな思いが、ひょっとしたらあるのではないのかなというふうに思っています。ですが、そうではなくて、住民さんたちが輝けるように、住民さんたちが主体になって、こちらのサロンをつくっていききたいなというところで、今、試行錯誤しながら、この三つの包括の中、二つのあんしんセンターさんの生活支援コーディネーター、まさに4月からの新人というところで、大変今、ご苦労されながらコーディネーター業務をやっていらっしゃる場所なので、3者で協力しながら活動しております。

先ほどの図のほうに戻りまして、次に多かったのが男性へのアプローチというところで、三つの高齢者あんしんセンターの生活支援コーディネーターの方々が挙げていらっしゃいます。前回もちょっと、少し紹介させていただいたんですけども、やはり女性に比べて男性の社会的孤立割合が高いというデータが、本当に出ておりますので、三つのあんしんセンターの皆さん方、ちょっとそれを何とか解消できないかというところで、試行錯誤しながら取り組んでいらっしゃいます。今日いらっしゃる豊島のほうも頑張っ

て取り組まれている活動ですね。

そして、その次、同じく六つのコーディネーターの皆さん方が挙げていただいたのが、

新しい仕組みづくりというものです。これはどちらかというところ、ちょっと今まで取り組んでいなかったチャレンジングな内容を挙げてくださったところを、ちょっと私がまとめたという感じです。

じゃあ、チャレンジングな内容って何かという話なんですけれども、先ほど藤原先生もおっしゃっていましたが、若い方たちとの出会い、前期高齢者の方々との掘り起こしと言ってはなんですが、一緒に巻き込んでいくということを挙げられたところもありました。

高齢者あんしんセンターって当たり前ですけど、ちょっとお元気ではない方々がご相談に来られる相談窓口なので、あんしんセンターの方々、皆さん、いや若くて元気な人たちは一体どこにいるのかねと、よくおっしゃいます。なので、そういう方たちとの出会いの機会を、ちょっと何とか考えたいということを挙げられたりですとか、あとは、インスタとかラインとかを何とかつながりづくりをするために、ここを導入できないかみたいなのを挙げられた方もいらっしゃいましたね。

よく私たちが笑い話でするんですけれども、いまだに包括さんとの連絡がFAXでやり取りされていたりとか、ちょっとまだ昭和の匂いを醸し出している私たちの連絡手段なので、個人的にはもちろんインスタとかラインとかをやっていても、生活支援コーディネーターとしてやられているというのは、なかなか、やっぱり個人携帯を使うのは難しいので、ちょっとそういうようなところとかも、今後のことを考えて検討されている方がいらっしゃいました。

そのほかにも、地域の人たちとヤングケアラーなどの、ちょっと新しく出てきた課題についての勉強会であったり、あとは障害分野との連携などを挙げられたところもあります。

そして、もう一つ、6か所の生活支援コーディネーターさんが挙げてくださったのが、ターゲットを絞った町会・自治会さんとの関係強化というところなんです。もちろん全てにあんしんセンターさんのほうが、町会・自治会さんとの関係づくりに取り組んでいらっしゃるんですけれども、例えば会長さんが代わられたとか、そういうことで現在の地域の状況について、生活支援コーディネーターのほうに相談をされるということもあると伺っています。

あとは、実はうちも集会所があるんだけど、何か活動できないかなとか、そういうふうにご相談を受けることもあるそうです。ちょっとそういうふうには、今年度はこの町

会さんにそういうことを一緒に取り組もうということで、ターゲットを絞って活動されていることを重点事項に挙げていらっしゃる方もいらっしゃいます。それぞれの目的に向けて、生活支援コーディネーターが今、頑張っているところなので、私もできる限り後方支援として動いていきたいと思っております。

そして、次ですね。こちらのほうは、今回ヒアリングのときに生活支援コーディネーターの方々に、連携強化していきたい関係機関はありますかというふうにご質問をさせていただいたときに上がってきたものです。

生活支援コーディネーターなので介護予防を推進するというので、やはり高齢者の方々とか、支援組織の方々への働き方が、連携先としては一番多いですね。民生委員さんとかもそうですね。しかし、ちょっとこれからは、町全体でお互いを支え合ったり、活動を広げていくためには、他分野・多世代というところも、やはりちょっと大きなキーワードになるかなということで、先ほどの重点項目にも、九つのあんしんセンターのほうで挙げていらっしゃいました。

多世代のほうで一番声が上がっていたのが、スクールコーディネーターさんですね。平井委員もやられていらっしゃいますよね。包括支援センターですと、やはりスクールコーディネーターの方が、一体どなたが担当されているのかというのが、なかなか学校側に聞かないと分からないというところもあって、ちょっとまだまだ踏み込めていないというような話も出ていました。実際にアポイントを取るとしても、どのように連携したいかということ、もう少し、ちょっと明確にしないとご相談ができないかなと思って、ちょっと二の足を踏んでしまうような話も出ていました。

例えば、スクールコーディネーターさんの集まりのときとかに、生活支援コーディネーター、こんな活動しているので、今度何か一緒に連携できませんかねなんて、ちょっとラフにお話しできる機会があればいいのかななんて、ちょっと考えたりもしてましたが、ちょっと皆さんのほうから、そんな声も上がっております。

あと、学校側は、学校さんのほうは、認知症サポーター養成講座などで連携している包括さんがとても多いんですけれども、ちょっとそのサポーター養成講座で終わってしまって、そこから先の交流にちょっとつなげられないかなというようなことを考えていらっしゃるような話も出ていました。

王子光照苑さんなどは学校の開放日に、地域の高齢者の方々と一緒に昔遊びを、学校さんと、保護者の方々と、地域の高齢者の方々と一緒にやられたりしていますので、今

後ちょっとコロナ後なので、少しそういう活動も活発になればいいなというふうに思っております。

企業さんのほうでは、サミットとか、セブンイレブンとか、地域の人たちが日常に通う店舗のほうで声として上がっていました。特にサミットのほうは、王子の地域では、あんしんセンターの認知度調査の場に、ちょっと提供をしてくださったりですとか、あと滝野川のほうにあるサミットさんでは、包括支援センターの紹介コーナーを作ってくれたりとか、生活支援コーディネーターが働きかけることで、今まで包括支援センターとつながりがなかった、住民と包括支援センターをつなげる機会に協力をしてくださっているというふうに聞いております。

生活支援コーディネーターも、本当にお忙しい業務かなと思うんですけども、他分野にも、まめに足を運んでいらっしゃるというふうに聞いていますので、つながりづくり、介護予防推進の働きかけに、これからも励んでいきたいと思っております。

こちらでも新組織ですが、昨年度、2層の生活支援コーディネーターの3名、代表の方が出ていただいて、業務用PTというプロジェクトチームをつくって、生活支援コーディネーターの動きを見える化できるような書式を作成いたしました。生活支援コーディネーターとして、ネットワーク構築のためにどのくらいアクションしたかですとか、地域の方々と話し合う協議の場などに、どんなところで何回開催したかとか、数字で出せるようにしていきたいなというふうに思っております。

計画の3番です。研修は開催ということで、既に今年度もう1回開催させていただいております。年明けにもう一回、開催のほうを予定しております。

そして、スライド4番のほうですが、協議の場の立ち上げ・運営支援というものを、もう一つ、ちょっと事例のほうをご紹介しますと思います。

先ほどもちょっとお伝えしたフェイスブックまとめのほうから、3番の「レコードを楽しむ会」という、新町光陽苑さんのほうでやっていらっしゃる活動のご報告をしたいと思っております。

もともとの着眼点としては、先ほども出ていました男性の方々の社会的な孤立の割合が高いというところで、実は昨年度からちょっと取り組んでおりまして、昨年度は担い手づくり講演会のほうで、男性の社会参加にスポットを当てて講座を開催しまして、講座開催後に体験会として、男性だけちょっと有志の方に集まっていたいただいて、プラットフォームのほうにも協力をいただいて、「レコードを楽しむ会」というのを広域で開催

をいたしました。その流れを受けて、新町光陽苑さんのほうが、ショウヅキのほうでも、現在ちょっと取り組んでいただいていますね。現在、ちょっとレコードに興味を持つ男性の方々と一緒に、開催は3回ぐらいですかね。あと話合いも、今、数回行われている状況です。

新町光陽苑のエリアは、北区の中で、実は一番高齢化率が低いエリアなんです。14.3%というところで。なので、私は・・・見ているから感じるのかもしれないですけど、もう新町光陽苑エリアならではの活動に、今、進化しつつあるかなというふうに思っています。

この「レコードを楽しむ会」というのは、やはり、こだわりのある男性方がちょっとレコードをひとつツールにして、外出機会にならないかというものなんですけれども、「思い出とレコードをお持ちください」というのをチラシで呼びかけて、男性の方々に集まっていただくというものです。新町光陽苑さんでも七、八人集まっていただいて、集まった方々が70前後の方が多かったです。なかなか、あまりちょっと知り合う機会のない、元気な男性の方々です。もっと高齢の方も、もちろん参加されていましたがけれども。

あと、以前ちょっとプラットフォームでやったときには、百恵ちゃんの引退のレコードとか、割かし歌謡曲とか、ビートルズとかの話が多かったんですけど、新町光陽苑はジャズが好きな方がとても多くて、こだわりの強い男性の方々がたくさん集まっていたというふうに思っています。なかなか、ちょっとレコードプレーヤーもなかったもので、一番初めはプラットフォームのレコードプレーヤーのほうを、新町光陽苑のエリアまで車でセンター長が運んでくださって、それをみんなでかけるということをやったんですけれども。

プラットフォームのレコードプレーヤーも、CDコンポが壊れたときに安くAmazonとかで買ったやつなので、針がやっぱり何かこだわりの強い男性には、ちょっとお気に召さなかったようで、ちょっとこんな針じゃあ駄目だみたいな話とかも結構されたりですとか。あとは、そうですね。その針で、自分が思い出の詰まった、もう何十年前に買った大事なレコードをかけるなんてどうかみたいな話とかもちょっとあったんですけども、実際、何回か開催してみると、皆さん方、やはり自慢話も含めてなんですけれども、例えばジャズのレコードでも、ライブのジャズのレコードをかけられて、いやここはトランペッターと、このピアニストがけんかするところまで録音されているんだ

よみたいなうんちくまで入ってきたりですとか、とても何か大変皆さん盛り上がっていらっしやいましたね。

70前後の元気な方々なので、フレイルとかと言われると、ちょっと違和感がある世代の方々。でも、ちょっと同好会的にマニアック路線にするのはどうなのかとか、それだったら多くの人たちがやっぱり参加しにくいのではないのかとか、そういう意味でも、割かし建設的な意見が物すごく出されていたかなというふうに思っています。

ちょっとマニアック路線に一度行きかけて、新町光陽苑さんも大変悩んで頭を抱えていらっしやったんですけれども、最終的には、やっぱりいい音で音楽を聴くマニアックさというよりも、自慢の混じったおしゃべりが楽しい、やっぱりこういうことが大事だよねというふうに、だんだん皆さんの意見も集約されてきて、思い出を語ることは私たちのほうから見ると、やっぱり回想法にもなるなとも思いますし、皆さん方は自慢もできるからうきうきするし、前日から何のレコードを持っていこうかなというわくわくもするから、レコードに限らず、音楽について、その思い出を話し合うことが、意味があるんじゃないのかなというふうにこの間の話合いでは出ていらっしやいました。

新しい世代の方々との地域づくりというのは、私たちもなかなか経験が少なかったりするんで、包括全体でも、どういうふうに出会えるかも含めて悩んでいるところで、私自身も大変勉強しながら、今、進んでいるところかなと思います。今後も様々な協議の場の立ち上げ、運営支援に注力していきたいと思っております。

そして、計画の5番ということで、区・1層・2層と協働により、地域課題への効果的なアプローチに向けた取組というのを挙げさせていただきました。右の図は、現在、先ほども出ていましたけれども、北区における地域ケア会議と協議会の図になっております。下から上の流れになっておりまして、16か所の各地域包括支援センターのほうで、地域ケア個別会議であったりとか、地域包括ケア連絡会で出た課題を、王子・赤羽・滝野川という三つの近隣エリアでチームとなって、地域包括ケア連絡会を毎年開催しております。

そして、その三つの近隣エリアで話し合うテーマとか、会議の参加メンバーというのも、その近隣エリアのメンバーの方々で今まで検討のほうをされて、その報告のほうを、こちらのほうのおたがいさま地域創生会議のほうにも上げさせていただいております。今年度はより体制整備事業充実に向けて、課題抽出会議と称して、高齢福祉課さん、長寿支援課さん、そして2層の生活支援コーディネーターの代表の方々3名、そして1層

の社会福祉協議会と4者のほうで、組織を超えて率直な意見交換のほうを行って、より充実した会議が開催できるような話し合いを現在、重ねております。

今までは、近隣エリアという枠組みで会議のほうを開催しておりましたので、まずは北区全域の視点で課題の絞り込みを行って、その課題に向けてのテーマを決めて、方向性を定めて取り組むことができたらというふうに、今、考えております。

ちょっと資料のほうから飛び出して、四つの円が重なっているものをご覧いただければと思います。現在、課題を抽出する過程を、この4者でやっているんですけども、組織によって、やはり見えていることとか、切り口とか、課題の捉え方などがそれぞれ違いがあるので、そちらをまずお互いに理解するところから行っております。

まずはこちらの図に、今まで自分たちが把握している課題を挙げてみる。マッピングするということで見える化をしてみました。この四つの輪の図は、厚生労働省さんのほうの地域支援事業の連動を意識するためのイメージ図というものから挙げております。例えば、私は包括支援センターの職員ではないので、生活支援コーディネーター、1層の視点でやっぱり考えてしまいがちで、住民が参画するまで話し合う生活支援体制整備事業寄りの課題にばかり目が行ってしまうところがあるかなと思います。ですが、包括支援センターさんは、これらの四つの絵の全ての事業に関わっておりますし、実際には地域包括ケアシステム構築に向けるためには、四つの事業の連動を意識して課題を考えていく必要があるということも4者では話し合っているところです。

といっても、なかなか今は難しく、課題を整理する作業なんですけれども、こちらの内容については、高齢福祉課さんからもフォローのほうをいただければと思っています。

以上が、今年度、生活支援コーディネーターの計画と進捗状況の報告になります。長々ありがとうございました。

【会長】

ありがとうございました。非常に何ていうか、リアルな事例と、それをまた体系的にお示しいただきましてありがとうございます。

それでは委員の皆様から、まず、ただいまのご報告に関しまして、ご意見、ご質問、コメント等がございましたらいただきたいと思います。いかがでしょうか。

委員、お願いします。

【委員】

赤羽ベーゴマクラブです。

6 ページ目ですね。資料4のところですね。強化していきたい関係機関のところの多世代交流のところにもあったし、スクールコーディネーターで入っているんですけども、ここで今、僕はスクールコーディネーターとは別に、ベーゴマクラブとして今、区内で5か所の学童とか、わくわく広場でベーゴマを月に1回ぐらいの程度のペースで教えに行っているんですけども、学童さんに聞きますと、やっぱり学童さん、今、ほとんど民間委託されていますので、民間事業者が入られていて、地域のことに関しての情報はそんなに多く持っていらっしやらないんですね。なので、どういう活動があるのかとかも知らなくて、僕はたまたま高齢者あんしんセンターさんから、ボランティアで一緒に行きませんかということでベーゴマをやりに行ったら、たまたまちょっと時間が足りなくて、あまりベーゴマができなかったら、もっとやりたかったのにと子どもからクレームが来て、それで先生に来てくださいということで言われてから、継続的に行くことになってということがあったんですね。

そのときにやっぱり、ベーゴマを通じて高齢者の方と地元の方とつなげたらいいなということ、やっぱり学童の先生もイメージは持っていらっしやって、ただ、どうつないでいったらいいのかというのが、学童の先生も分からない。どうアクションをしていいか分からないというところがあって、やっぱり学童と学校って別枠なので、そこがやっぱり情報交換を確実ににはできていないんですね。なので、学童のほうも視野に入れて、ちょっと声をかけてみるということをする、ベーゴマに限らず、関わりが多く持てるのかなというふうに感じたので、ちょっとここでお伝えさせていただきました。ありがとうございます。

【会長】

ありがとうございます。非常に参考になるご意見かなと。

【生活支援コーディネーター】

はい。そうですね、ぜひ。

【会長】

先ほど、生活支援コーディネーターのご説明の中で、スクールコーディネーターさんとの関わりをどう持てばということで、たまたま平井委員はやっていらっしやいますけど、逆にスクールコーディネーターさんから、地域でこんな方がいらっしやったらあり

がたいとか、こういうところをサポートしていただきたいみたいなニーズというのは出てくるものなのか、やっぱりこちらから、これができますよ、これをしませんかみたいな形で売り込んでいくべきなのかというか、その辺はどういうお立場というか、どういうものなんでしょうか。

【委員】

そうですね。スクールコーディネーターというのは、基本的には学校側からこういう、何ていうんですかね、学習のための機会はないですかとかというのを、先生から頼まれてちょっと探してみたりとか。僕の場合だと、ベーゴマができるんですけど、ベーゴマ、こういうのをやってみませんか、総合の授業でやってみませんかという形で先生方に提示したりということをしているので、確かにスクールコーディネーターに、こういうことができるんですけどどうでしょうかということをお伝えしておく、選択肢の一つとして学校から言われたときに、じゃあ、高齢者のほうとつないだらいいんじゃないかということは持っている可能性があるんで、ひとついいのかなとは思いますが。ただ、学校も直接やり取りができるのであれば、いいかなとは思いますが、学校側だと先生たちお忙しいので、やっぱり忘れられちゃうだとか……。

そういうことと言えば、スクールコーディネーターのほうが、PTA会長だった人たちが、継続指定されている方が非常に多いので、地域のことを結構知っている方もいらっしゃると思うので、いいかなとは思いますが。

【会長】

スクールコーディネーターの方というのは、大事な中間支援者というかなと思いましたが、逆に、たまたま委員さんは、こういう関係の中でつながりがおありかもしれませんが、スクールコーディネーターさん同士の横の連携というのは、そういう可能性というのはあるんでしょうか。

【委員】

そうですね。集まりとかはあるんですが、そんなにしっかりとした横のつながりというのはあまりなくて、僕はまだ今年で2年目なので、まだあまり理解してない部分が多いんですけども。そうですね、あんまり今まで連携したなという感じは、正直ないですね。

【会長】

ぜひ、これを機に委員ご自身も、ちょっとスクールコーディネーターのネットワーク

を作っていて、別にインフォーマルで全然いいかと思うんですね。気心のある人とか、この人はいけそうかなみたいな形でいいと思うんですけど、そういった方をまた社協さんにご紹介いただいたりすると、様々なエリアに広がっていくのかなと思いましたので期待したいと思います。よろしくをお願いします。

ほかは、いかがでしょうか。

【委員】

すみません。今のスクールコーディネーターの関係は、僕は直接やっていないんですけど、地元の八幡小学校の中にも、やはりおられまして、結構、人気のある女性で、あっちこっち、何か行っているみたいなんですよ、話を聞くと。

それから、もう一つは新規居場所の立ち上げという関係で、先ほど滝野川病院のサロンで一生懸命やっているというすばらしい活動が報告されましたけれども。滝野川西のふれあい館でも、やはり三丁目から七丁目のお年寄りを集めまして、月1回、ふれあいサロンというのをやっております。それで、それは、大体55名から65名ぐらいの方が集まって、もういろいろ担当の人たちがみんな試行錯誤して、計画するなり、企画立案をし、いろいろ考えてね。それで毎年すごい人数が来ておりますので、そういうのも一応やっていますよということで、ちょっと報告だけさせていただきます。

すみません。失礼します。

【委員】

介護サービス事業者から来ました。

詳しいご説明、ありがとうございます。生活支援コーディネーターさんの仕事の範囲が大変広がっているということ、加えてこの資料の4ページにもあるように、重点課題として何を取り組んできたかということが具体的に、それも広がっているということも実感しました。その点で励まされながらですが、第9期の計画の中でも、高齢者あんしんセンターの知名度を上げていくということが数字で出ていますが、その中で、生活支援コーディネーターさんの知名度というのが、あくまでも数字は肌感覚ですけど、ほかの3職種とはまた違う意味で高まっている、広がっている、知られているというふうに感じています。

そこで、地域の皆さんから見れば、コーディネーターさんの仕事の範囲の内容を実感しつつも、じゃあ介護サービス事業所の視点から見ると、個別の業者さんの相談を通じてのつながりなので、はがきが高齢者・・・であっても、どこそこのあんしんセンター

何とかさんというふうな形に、理解で終わってしまうことがあるんですね。

そこで、ここまでは感想ですが一つ質問で、私も生活支援コーディネーターさんの役割と、あと、見守りコーディネーターということが出てきます。そういう中で、平成12年の地域包括支援センターが発足したときにはなかった職種として新たに設置されて、必要があってこれだけ広がってるという中では、こんなにいると、こういうことをしているんだという具体的なことが伝えられても、介護サービスの事業に関わっている者にとっては、まだ十分でない部分があるかもしれないので、例えばですけど、分かりやすい言い方ですね。生活支援コーディネーターさんは、こういうことをしている仕事なんですよというのを、何か分かりやすく、短く、もし何か、実はこういうふうに言っているんですなんてありましたら、ぜひ委員さんもいらっしゃるし教えてほしいなと思う、参考にしたいと思いました。

以上です。

【委員】

ありがとうございます。生活支援コーディネーターです。

高齢者あんしんセンターに、生活支援コーディネーターを北区は配置しているというのが特徴でありまして、当初、見守り促進補助事業という事業が区のほうで始まった際に、見守りコーディネーターという立ち位置の職員をあんしんセンターに置きました。

その後、生活支援体制整備事業、総合事業が始まるに当たって、生活支援コーディネーターの配置を見守りコーディネーターと重ねてというところで、生活支援コーディネーターという役割の者が、あんしんセンターにずっと配置され続けているという流れになっておりまして。コーディネーターがいますよということを、おっしゃるとおり包括職員でもあるので、地域の包括の仕事としても動いていますので、その辺の区分けがついていらっしゃらない方も多いかなどはと思いますが、いろいろな差異があるときには、生活支援コーディネーターは地域のいろいろな活動の窓口になりますよみたいなチラシがあつたりしますので、そういったものを用いながら、こんな活動、こんな立ち位置の職員がおりますということをアナウンスさせていただくことはあるかなとは思いますが、おっしゃるとおり、まだ知られていないという部分はあるかと思っておりますので、これからも引き続き、続けていきたいなとは思っております。ありがとうございます。

【委員】

民生委員です。

正直言って、生活支援コーディネーター、実は私もよく分からない部分が多かったんですけれども、いろいろと地域の、民生委員の場合は特に児童委員も兼ねてはいるんですけれども、高齢の方との接する機会が多くありますので、そういう意味で、この支援コーディネーターさんに相談する機会というのは、当然、多いのではないかなとは思ってますけれども、実際自分なんか、いろいろ相談事とかがあって困ったときには、地域福祉課のほうに連絡を入れてしまったりとか、地域包括支援センターのほうに電話をしたりとかいうところでの関わりのほうが強く感じておりまして、直接この支援コーディネーターさんに連絡を入れるということは、今まであまりなかったかなというふうに感じています。

そして、このコーディネーターさんの立てた重点事項内容の中で、若い人との出会いというようなことが、先ほど新しい仕組みづくりの検討の中で話が出ていましたけれども、これでちょっと感じたのは今、8月、地域でお祭りとか、今年は、田端の場合は手作り縁日という形で、お祭りが無い年、各年ごとにお祭りをやっていますので、今年は手作り縁日ということで92号線のところを、車を止めまして手作り縁日10町会の、いろいろとテントを張って縁日をやるんですけれども、そのときに、どこからこれだけ小さいお子さんが来るのかなというような状況になっておりまして、そういうときに高齢の方々も出て、触れ合う機会をつくったらいんじゃないかなというようなこともできていくかなというように、ちょっと話を聞いておりまして感じたところなんですけれども。

できるだけ、やはり高齢の方のほうに目が行っていますけれども、そこを小さいお子さん、若い人たちとの接点をつくっていくという意味でも、これから、この支援コーディネーターさんとの連絡も取りながらやっていく必要があるかなというふうに感じたところです。

【委員】

ありがとうございます。おっしゃるとおり地域の窓口、いわゆる町会・自治会さんとかのところに、私たちはまず大体挨拶をさせていただいて、個別の相談とかは地域包括支援センターの職員が、誰でも受けられるようになっておりますが、窓口という意味では、何人もいると、なかなか統一が図れない、関係性を気づくのが時間がかかるということもありますので、そういう地域の活動、お祭りとかそういったイベントのことに關しては、生活支援コーディネーターを中心に情報を集めて、そこから発信、私たちも一緒に活動すると。多世代というのは、なかなか接点が難しいので、今言ったような、そ

ういう場があるところに出向いて、つなぐ役というのを果たしていけるのが一番の近道なのかなと思っております。ありがとうございました。

【会長】

ありがとうございます。確かに今、委員がおっしゃったように、生活支援コーディネーターって何か一般の市民の方が聞くと、何か日常生活の、例えば買物の代行ですとか、困り事をマッチングするような人みたいな、何かそういう名称だと思うんですね。これは厚労省が決めた用語だと思うんですけど。

でも、例えば地域包括支援センターも、あんしんセンターというニックネームがあるように、ひょっとすると、もうちょっと分かりやすいネーミングなんかを考えていくというのも、何か北区らしくていいのかなと思いました。

【委員】

生活支援コーディネーターさん方って、本当にネットワークづくりや仕組みづくりって、すごい大変な事業の中で、センター長と兼任という、その兼務されている方って比較的多いのかなと思うんですけども。他区では、生活支援コーディネーター専従みたいな方も中にはいる中で、いろんなことをネットワークアセスメント、いろんな仕組みづくりをやる中で、専従の方って逆にどのぐらいいらっしゃるのでしょうか。

専従の方って、この地域づくり、仕組みづくりを地域包括で兼務になってしまうと、センター長はこうだと思うんですけど、ほかのいろんな業務を担いながら、社会福祉士さんと生活支援コーディネーターさんとか、いろんな業務を担っている方々が多いかと思うんですよね。専従というのは。

【生活支援コーディネーター】

すみません、私のほうから。

一応、北区のほうでも、生活支援コーディネーター1名ということで、専任という形にはなっています。とはいっても、包括支援センターの職員でいらっしゃるの、皆さん、ケースもやりながら、窓口もしながら、虐待のときに呼ばれたら虐待のほうの対応をしながらやっていらっしゃるの、多分全員だと思っていて。理想は生活支援コーディネーターの方々が、もっと地域に出て、もっと地域の方と話ができれば、こことここがつながれるのに、でも、そんな時間がないというのが、今の大きな悩みの一つかなというふうに思っています。

他区のほうは、本当に生活支援コーディネーターが包括支援センターのほうに配置さ

れているところもあれば、社会福祉協議会にあるところもありますし、一般の住民の方々が流れている場合もありますので、本当にいろいろなんですよね。地域包括支援センターで、生活支援コーディネーターを持っていらっしゃるの全国的には4割ぐらいだったかと思います。

【会長】

いや、非常に重要なご指摘だと思います。何か、やっぱりコーディネートの仕事って、なかなか見えにくいものがあるって、ついつい周りのほかの職員がケースで汗をかいていると、自分だけコーディネートしていると何か気が悪いなというようなところもあったりするかと思うんですよ。でも、やっぱりコーディネートすること自体が非常に重要だということ認識すると同時に、メンバー、人員が増えればいいですけども、それがなければ、そのコーディネーターの方がいかに効率よく仕事ができるかということ考えると、例えば先ほどの学校と連携したいというようなときに、いきなり学校にノックしに行くんじゃなくて、コーディネーターさん同士がつながっておくとか、コーディネーターの方が、ああ、この人をちょっとつながっておけば、わざわざ出向かなくても電話1本で、メール1本で済むよねみたいな人をたくさんつくっておくということも一つかなと思いますので、非常にこの辺大事な課題だと思いますので、うまく効率よく、コーディネーターが従事されているような事例を皆さんの中でも共有していただくということも大事かなと思いました。ありがとうございます。

ひとまず次の話題提供に移りたいと思います。

【事務局】

資料の7をご覧くださいでしょうか。

先ほどの生活支援コーディネーターからの報告の中で、地域の課題を見える化して、取組の方向性をきちっと把握していこうというようなお話をいただきまして、地域ケア会議と協議体で挙がる課題について、少し分野ごとに作業をしたというものになります。これについてご説明をさせていただきます。

課題は、高齢者あんしんセンターが抱えているものが全部なので、本当にいろんな分野にわたっているということをちょっと今回は表してみました。生活支援コーディネーターのうち3名の方に協力していただきまして、四つの部署で集まって検討をしたものになります。少しご説明をさせていただきます。

まず、分野が四つで、認知症総合支援事業、在宅医療・介護連携事業、介護予防・日

常生活支援総合事業と生活支援体制整備事業というふうにちょっと区分けをしております。その真ん中にありますのが、地域ケア会議、協議体とありますけれども、地域ケア会議というのは、高齢者あんしんセンターでは、地域ケア個別会議としてケアプランを通して事例の検討を行っているものになりまして、協議体というほうは各高齢者あんしんセンターで行っている地域包括ケア連絡会がベースになっております。

黒い枠で囲っているものが、そういう会議とか高齢者あんしんセンターの日常の相談活動の中から把握されている課題になっております。本当は、作業の中ではもう山のよりに課題があったんですけども、ちょっとだけ絞り込んで表現をさせていただいております。

まず、認知症総合支援事業という切り口で見た場合、認知症の分野で見た場合にこんな課題があるよねというふうに挙げたのが、「認知症」に否定的なイメージが強いとか、認知症カフェに新規の参加者が少ないとか、こんちゃんサポーターというボランティアさんを養成というか、協力していただいてサポーターになっていただいているんですけども、そういった方と認知症の方とのマッチングだったり、事業への関与というところで、まだまだ課題があるなというようなことが挙げたりしています。

少し、在宅医療・介護連携と認知症事業と枠がかぶっているところに、ごみ出し、サロン等への声かけ・付添などのちょっとしたサポートが不足というふうに書いてありますけれども、認知症の方の場合は、例えば体は元気で認知機能が低下したりしているので、要介護認定というのは非常につきづらい状況にあります。ある程度自分のことはできるんですけども、ちょっと計画を立てたり、例えばごみ出し、明日は燃えるごみの日だからまとめておこうとか、自分で持っていかなきゃというような、ちょっとしたことができにくくなって、誰かの声かけなどのサポートが必要になったりするというようなことが、よく事例の課題として挙がってきます。もうそれは、要支援とかちょっとフレイルがある高齢者にもある意味共通の部分があったりします。お家の中でごみをまとめることができても、出しに行くまでの困難さがあって、ごみがたまってしまおうとかというような課題も地域ケア個別会議の中で行ったりします。

左下の在宅医療・介護連携推進事業の枠をご説明したいと思います。ここが地域ケア個別会議の中で、非常に困難で、大体毎回挙がってくる課題が含まれています。多いのは、セルフネグレクトで医療とか介護の関与を拒否されている方をどうサポートしていくかというような課題。それと認知症などでご本人の意向確認が困難になってきている

方に関して、それが進行していくと金銭管理とか、いろんな保険証だったり、介護保険のことだったり手続きが困難で、非常にサポートを要するという課題。そのサポートを専門職であるケアマネさんとかホームヘルパーさんが業務外の中でサポートをしていて、支援者の負担が増加しているということもよく出ます。

人生の最後のほうに行ったときに、おひとり暮らし、身寄りがいないとか、親族と疎遠な方の入院のときの身元保証とか、その後の在宅医療を受けるための準備とか、そういったところでの保証人の問題、終活の問題というのもよく挙がってくる問題です。

それでちょっと左側を見ていただいて、高齢者だけのことではない課題というのも非常に多く挙がってしまっていて、8050問題、ひきこもりの方がそのまま高齢期になってくるとか、あと、ヤングケアラーの課題は、今、全国的にも注目されているところだと思います。そして、ダブルケアという状態の方も増えてきていると思われまして、お仕事をしているけれども介護も子育ても必要というところで、介護離職の防止ということも国としてはうたっている部分です。例えば、このような小さな課題が積み上がっていて、じゃあ私たちは何ができるかなというところを少し、今やっていることも含めて、取組の方向性として色塗りの枠を作ってみました。

認知症のところに行くと、「認知症」に否定的なイメージが強いのを、年を取っていくとみんなが認知症になっていくんだというようなことで、当たり前のことと思えるような普及・啓発、今もやっていますし、今後も引き続きやっていくんだなというふうに思っています。あと、認知症のご本人の発信支援で、その辺りを取り組む方向性としては、計画の中でも挙げています。

下の在宅医療・介護連携のところの色塗りの付箋でちょっとだけまとめたのが、例えば左側のところだと、高齢者だけじゃない課題に関しては、今、庁内の中でも連絡会議とか、ひきこもりの相談会を合同で実施するというようなことも取組をしています。そういったことを周知するというのも必要だなというふうに感じています。あと、家族介護者支援という部分では、多世代、介護している世代の人たちにどう情報を届けるかというところも重要なことだなというふうに思ってくくってみました。

そして、右側のほうに移りたいと思います。右の上のところは、今回の生活支援体制整備の中で、スポットを当てて取り組んでいけないといけない課題が入っているというふうに認識をしております。例えば、高齢化が進んで地域のつながりが弱まっている。コロナという時期もありまして、こんなような状況が懸念されるという課題が挙がって

います。先ほど出ていたような多世代の交流の場や活動の場を創設することの課題。生活支援コーディネーター自身が割ける時間も限界とかもあって、どう活動の場をつくっていけるのかというような課題も挙がっています。そして、活動の担い手をどう協力者を発掘していくかということ、育成、継続をどう支援していくかということの課題も大きいなというふうに挙がっています。

そして、少し下の介護予防・日常生活総合支援事業とかぶっているところにありますのが、男性の集いやすい場がないとか、徒歩圏内に通いたい集まりがない。これも1事例の地域ケア個別会議から挙がってきているものです。実際に集まりの場がないとかということもあれば、実は地域の中に活動はあるんだけど、ケアマネジャーさんにその活動の情報がうまく届いていなかったり、そこの間のマッチングということにも課題があります。

少しそのまま下に行ってください、介護予防に関すること、生活支援体制整備事業と非常に密着しているんですけども、住民主体の通いの場、住民主体で活動しているということが介護予防につながるんだよということで、非常に密着しているというふうに思っていますけれども、介護予防に協力してくれる地域のインフォーマルな関係機関とのネットワークづくりとありますが、様々なところに通いの場の種があるのではないかというのをこういった会議とか連絡会の中で情報を得ていく。先ほど委員が、依頼人がスクールコーディネーターであることや、町会・自治会が企画をしてやっていたりするサロンのことなどの情報をいただきましたけれども、そういったことをうまくネットワークづくり、情報共有の場ができたらいいなというふうに課題としては挙がっています。

そして、そういった場がこんなところにあるということをしかりと地域の中で、あとケアマネジャーさんとか、少しフレイルな高齢者の方々に伝えていくということで、例えば今、総合事業のほうでは、短期集中予防サービスという、3か月期間、短い期間の中で、自分がしたい生活に戻っていくというような介護サービスの事業を行っているんですけども、3か月の後どう生活をしていくんだらうというときに、そういう身近な通いの場へのつなぎというのが非常に重要で、そこを充実させていく必要があるのではないかというような課題が挙がっています。

生活支援体制整備事業のほうでは、水色の色塗りの枠で取組の方向性を少しまとめてみているんですけども、地域活動や通いの場の情報の共有、今あるものをしかりと

把握した上で、どのように必要な人に伝えていけるかという課題があると思います。担い手の発掘というところ、先ほどの場の情報の共有というところと似ているんですけども、新たな活動を1からつくることばかりではなくて、今ある、今やっつけていっしょの活動というのを連携をして、そこにちょっと充実を一緒に考えていくというふうなところも重要ななというふうに考えています。

それとその下半分は、地域のつながりの再構築、孤立の防止・解消というところで、今まで生活支援コーディネーターさんが取り組んできている見守りのネットワークづくり、この辺の課題が含まれているかなというふうに考えています。これも引き続き、取り組んでいく方向性の一つだと思っています。

下側の紫のところには、総合事業に関しての取組の方向性ということをちょっとまとめてみました。やはり通いの場の情報の共有、それと住民主体の通いの場づくりが広がっていければいいなというところでまとめています。

少し課題としてまとめにくいものをご紹介します。一番右側の真ん中辺ですね。オートロックや急階段など、住宅が老朽化していて、昔のアパートの急階段で2階に暮らしていっしょの方とか、戸建ての室内の階段でリビングが2階にあるとか、そういったもうご本人自身ではなかなか難しい、下に、1階に下りるまでにも誰かの手が必要みたいな、そういう課題も挙がっています。それと、買物の場に行きにくいというようなことも地域によっては挙がってしまっていて、こういった辺りは、何か解決するための情報を得られる場があったらいいなというふうに思っています。

細かく言うともっととてもたくさんあったりするんですけども、こんなふうに切り口は様々なので、挙がっている課題をどこかの会議で検討したりできるのかなとか、区のほうでも、こんな細かい課題についてはこの場で検討していこうというふうな道筋を立てていきたいと思っています。

先ほどのご質問とかの中でも大分話題には出ていたかと思うんですけども、こんな課題をご覧いただいて、委員さんのお立場で何かご助言等をいただけたらありがたいと思います。

以上です。

【会長】

ありがとうございました。全体の地域課題の見える化、ご説明いただきましたが、委員の皆様からご意見、ご質問等ございましたらいただきたいと思っています。

委員、お願いします。

【委員】

ありがとうございます。赤羽ベーゴマクラブです。

ちょっとご質問なんですけど、上のほうにある認知症の交流・通いの場はあるが、情報が行き届いていないというところなんですけど、認知症の方も結構いっぱいいらっしゃると思うんですけども、生活支援コーディネーターの方々は、アセスメントはどこまでやっているのかというのは、例えばですけども、この認知症の方の趣味はどういうものなのかとか、そういう細かいところまで把握できているのかどうか。あと、どこまで認知症の方に対してサービスを提供できるのか。なかなか介護保険が活用できない中でどこまで、認知症の方は情報提供したとしても忘れちゃうじゃないですか。例えばベーゴマ、この認知症の方はベーゴマができます。体、指先が使えるからベーゴマは取れるけれども、いついつここであるよと言われても忘れちゃう。そのときに、現実にごここまで僕たちは連れてこれないので、そのときにどういうふうなことができればこの認知症の方がたどり着けるのかというところを考えたときに、多分サービス提供の限界値というのは多分あるとは思いますが、今現状で、どこまでができることで、どこからができないことなのか、教えていただけたらありがたいなと思っていました。よろしくお願いします。

【会長】

事務局、いかがでしょうか。その場までどうして行けるか、アクセスといいますか、そのお手伝いですね。

【事務局】

長寿支援課長です。ご質問、ありがとうございました。

全ての方に全部当てはまるわけではないと思うんですけども、今のところの仕組みとしては、認知症の方で早期の方に関しては、認知症初期集中支援ということで、包括の方たちの認知症の支援コーディネーターさんを中心として、まず、サービスを使っていない方とかも含めて、支援会議を開いて、サービスの必要性の辺りや導入の辺りをサポートさせていただいているような仕組みと体制があります。

その場の、例えばこの場所に認知症の方が来れないといった辺りは、例えばなんですけれども、動きとしては認知症カフェなんかも各包括を中心にして、今区内で二十七、八か所開催しているんですけども、そこに、先ほどご紹介のありました、こんちゃん

サポーターという認知症サポーターさんで、ステップアップ講座とかも受けていただいた皆さんも、今、活動をしていただいている、じゃあそのカフェに自分では来れない認知症の方も認知症のサポーターさんがお家まで迎えに行って参加をするというような、今、仕組みはだんだんできつつあるというところもあるので、もしかしたら認知症の方の身近なサポーターさんというところでは、このこんちゃんサポーターさんがこれから活躍できるというような地域を目指して、今、それがチームオレンジという仕組みなんですけれども、そんなところを今、北区としては目指しているところではあります。

【委員】

ありがとうございます。

【会長】

じゃあ、そのマッチングに関しては、あんしんセンターさんに相談すれば、そういうちょっと送り迎えなんかのサポートもしてくれる方がいらっしゃるかもしれないと。

【事務局】

はい。やっていたいているような状況です。

【会長】

非常に重要なご指摘かと思いました。ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

この四つの輪の図を見ておきますと、もうまさしく高齢領域だけではとどまらない多面的な課題を抱えているということで、いずれは、やはり多世代ですとか、あるいはその対領域をどう巻き込んでいくかということかと思うんですね。先ほどから担い手の中で、例えば認知症カフェもそうですけれども、新たな若い人が関われるような場ということで、私はいろんな地域の事例とかを見ていますと、やはりいわゆるお店屋さんですよ。お店屋さんもそれぞれの町に結構こだわりの店といいますか、新しいオーナーが少し地域づくりというか地域を愛して新しく店を建てているような人で、古民家を改造したりとか、ちょっとおしゃれに改造していると。でも、単に営業だけではなくて、地域のためにいろんなワークショップをしたりというようなお店なんかも結構あると思うんです。北区も幾つかそういうのもあるというようなことがあると思うんですが、やっぱりそういった拠点というのがあれば、様々な人が集まってきて。お店をやっている方という方は、もうほとんどが現役世代ですから、必然的に多世代交流になってくると思うんですね。やっぱりそのお店を回したいというプロですし、またいろんな人に

来てほしいというモチベーションが、全然地域のボランティアさんの何となくお手伝いというのとは全然違う、真剣みもあるということで、結構成功している事例というのはいくつも聞かれます。

この辺り、ちょっと小松委員にお伺いしたかったんですが、北区さんの商店街の中でも、そういったこういういろんな人たちが来れて、しかもちょっとこだわりがあって、初めから福祉は意識してなくても、そういう地域を愛して地域のために何かやっているけども、こういうセンスがいいといいますか、アンテナを立てていて、福祉とか健康を後でちょい足しできるような可能性のあるようなお店屋さんとか、あるいはそういうお商売をされているようなところというのは、何となくの印象でいいんですけど、探せばありそうなものなのか、その辺はいかがでしょうか。

【委員】

すみません。改めて帰りまして、相談させていただくということで。

【会長】

そんな大層なものではなくていいんですけども、ちょっと情報が入ってきたりとか、何かそういうのがあれば、ぜひまた、多分それは社協さんにとってもですし、このメンバーにとってそういうちょっとこだわりを持っていて、ここのオーナーなりここのお店屋さんとは何か地域と連携してくれそうかなというようなところがあれば、やっぱりこういうネットワークの中に入っていただけるかなと思います。ぜひ、ちょっとその辺を情報をいただければと思いますので、お願いしたいと思います。

【委員】

はい、分かりました。

【会長】

ほかはいかがでしょう。

【委員】

生活支援コーディネーターです。

今、事務局にご説明いただいたとおり、この地域課題の見える化というところで、この抽出会議に私も参加させていただいておりました。高齢者あんしんセンターで本当に個別ケア会議、一つのケースについて、地域の方と一緒に相談させていただいて、課題というふうに挙げられたもので、本当に見てのとおり多様です。私たちも本当に8050の問題から今度は地域の居場所というまで挙げるんですけど、それを各圏域、3圏域

で持ち寄って、じゃあ、圏域でどの課題を利用して会議を開こうかということのを毎年、これまでずっと行っておりました。

各あんしんセンター、本当にそれぞれの課題を持ってきて、こちらのあんしんセンターとこちらのあんしんセンター、それもうちも同じ課題があるというところで、なかなか選定が難しいながらを選んできて、これまで実施してきたところでもありますが、今後、またそれを政策形成というか、こちらの会議体に持ち合わせて、さらに課題解決に向けてというところが道筋なのかなとは思いますが、なかなかその持って行き方とか、どの課題を抽出してどうしていくかというのを本当にいつもとても悩んで、生活支援コーディネーターとして悩んできたというのが実情ですので、今、本当にここまで見える化して、これからどういう方法で、この地域ケア会議と協議体、ここを併せ持った機能ですので、それをどちらかに寄るわけでもなく、両方を忘れずに進めていくかというのをちょっと本当に一緒に考えていただけたらありがたいなというのを本当にコーディネーターというか包括支援センター職員としても、ずっとなかなか課題は常についていて、そこをよくしたいというところで、できるところにも協力してネットワークをつくって進めているものの、やっぱり、今、平井委員のお話にもあったように、やっぱり届いていないと。やっぱり知られていないことも非常に多いんだなというのをやっぱり実感しますので、その辺りを含めて、もちろんコーディネーターの活動も続けながら、一方、難しい課題については、どのようなところを一緒に考えていただけたらありがたいなと思いました。

以上です。

【会長】

ほかはいかがでしょうか。

【委員】

先ほどの集いの場で、商店等のご協力の件なんですけど、社会福祉協議会のほうでは子ども食堂のネットワークの事務局もやっていて、高齢者の集いの場ということではないんですけども、北区には大体お休みしているところも含めて40か所ぐらい、今子ども食堂があるんですね。ここ一、二年の傾向で言うと、ここ一、二年で立ち上がっている子ども食堂は、ほとんど店舗、居酒屋さんとかレストランとか。当初はボランティアベースで始められた子ども食堂さんも多くて、そこは割と多く多世代型のみんなの食堂みたいになっているところもあるんですけども、ここ一、二年の傾向は、居酒屋さ

んやお寿司屋さんやレストランというところが始めていらっしやって、私が今ちょっとぱっと思いつくだけで七、八か所はそういうところがあって、ちょくちょく相談も来ています。ただ、どちらかというところ、企業さんとか居酒屋さんとかレストランさんとかは、子ども食堂に関心があって、まだあまり多世代とか、あまり広くないとか大きくないとかがあるのかもしれないですけど、多世代型になっているところはほとんどなくて、まずは子どものところで始めているというようなどころが多いんですけど、もしかしたらいろいろやっていく中で、地域課題とかに触れながら、多世代型だつたりと轉換するところも出るのかもしれないなんて思っているところです。

【会長】

非常にいい情報をいただきまして、ありがとうございます。

確かに、ボランティアさんが公民館とか何か調理室を借りてやるというのがもともとのスタートが多かったかと思うんですが、やっぱり日常ここのお店がやっているとなると、お客さんとしても、平常の敷居が低く行ける部分もあるかと思うんですね。

これからやっぱり若い世代を巻き込んでいくとなると、しかも一般の若い世代を巻き込んでいくとなると、食事のメニューの内容もですし、やっぱり素人さんが作るというのではなくて、プロがやっぱり一緒に入ってやるというような設定というのは、非常に大事ななと思いました。確かに私の住んでいる家の近所なんかでも、イタリアのビストロで月2回か3回は子ども食堂の日みたいな感じでやるところもあるんですね。

ですから、やっぱりそういった視点というのが、一般の営業の中にどう組み込んでいるかというところは、多分支援する我々の側からしても効率的で、また幅広く普及するんじゃないかなと思います。ぜひまたその辺、社協さんのほうは、普及させていただければと思います。ありがとうございます。

1点、只今委員のほうの中座されまして、ぜひメッセージをということでおっしゃっていたのが、今回のこの図柄の中で、外国人の問題も早めに対応しておかないと、特に北区の場合、人口の多くを占めていくだろうと。非常に大事なご指摘だと思います。

外国人の方々も昼間は働いているかもしれませんが、それ以外のときは地域住民でいらっしやるわけですし、だんだん年齢も上がってきたり、あるいは家族も連れて来ている方も多いわけですので。ともすればいい隣人になれますし、そうでなければ、やっぱり疎外してしまっていて、関係性が悪くなって、いろんな問題が起きる可能性も高いと思うんですね。ですので、この図柄の中に今後、外国人の問題も入れてはどうかというこ

とおっしゃっておりました。

まさしく、広い意味での地域共生の場をつくっていくということが大事かなということをおっしゃっていらしたので、お伝えいたしました。

ほかはよろしいでしょうか。

【事務局】

すみません。先ほど、子ども食堂さんのお話が出ましたので、情報提供ということで。今まで長寿支援課のほうで、高齢者のふれあい食事会をずっと開催していたんですけども、コロナ禍で一旦閉じまして、今年度からシニアふれあい食事会ということで、町会・自治会さんとかにもご周知させていただきまして、先月説明会をさせていただきました。今のところ22団体ぐらい講習会を受けていただいているところがございます。一応、シニアふれあい食事会は多世代交流の場としても機能を付加しているようなところがございます。そんな場もできつつあるというところでお知らせさせていただきます。

【会長】

何か、東京都のほうも従来の高齢者向けの会食をもっと多世代で広げて、担い手も利用人も多世代でやりましょうというのは、何かそういう旗を振っているというのは聞いているんですけども、それを先に。

【事務局】

そうですね。子ども食堂さんのやっぱり仕組みをベースにつくったというふうに伺っておりますが、そこに多世代交流というところと、あと高齢者で、今、一体的実施ということで、介護保険とか保健事業の連携とかも含めた、そういう場としても機能できるようにということをつくれたらいいかなというふうに思っています。

【会長】

ありがとうございます。

はい、どうぞ。

【委員】

子ども食堂も担い手はほとんど高齢者で、そういう意味では、社会参加の場として子ども食堂ってすごく、まさに生活支援体制整備が求めている高齢者の社会参加の場づくりという意味では連動しているというような意味合いもあるのかなと思っています。

【会長】

ありがとうございます。まさしく高齢者にとってのボランティアであり、中では就労

的活動ですかね。やっぱり半分仕事としてちょっとその気分に入れるというようなところもあるかと思います。そういう意味でも、何かつくった会場でやるというよりも、お店に入ってちゃんとエプロンを締めてというのは、また高齢者の方にとってもリフレッシュな体験かなと思いますので、ぜひまたそういった多世代、食を介した多世代の交流というのを進めていただければと思います。ありがとうございました。

それでは、ひとまず次の議題に進みたいと思います。こちらまた社協さんのほうからよろしかったでしょうか。資料5ですか。

【生活支援コーディネーター】

それでは、私のほうから資料5ですね。3圏域の地域包括ケア連絡会の予定のほうをご紹介させていただきます。

今年度10月に王子圏域、11月に滝野川圏域、12月に赤羽圏域の連絡会のほうを開催させていただく予定です。

王子圏域は昨年度の流れも引き継ぎながら、孤立を防ぐためにご近所の互助力を上げていくような、考えていくようなグループワークのほうを開催していく予定です。

滝野川圏域は昨年度の地域ケア個別会議で、それぞれの包括支援センターのほうから出た課題をちょっとどうしようかということで悩まれて、今年度は孤立予防についての事例報告とグループワークのほうを考えられているそうです。

赤羽圏域のほうは、今まで東洋大学さんと一緒に連携を3か年計画でやっていました。今年度はそれがさらに進んで、学生さんと地域の方々が一緒に地域のイベントを企画するという実践につながってきております。ちょっとチラシは今回ちょっとおつけしなかったんですけども、9月28日に学生さんと地域の方々の合同で企画した盆踊りイベントのほうを赤羽北ふれあい館で開催するというふうに伺っています。12月の地域包括ケア連絡会では、そちらのほうの報告会も含めて開催するというふうに伺っています。

委員の皆さん方にも、これからメンバーをお声かけさせていただくかもしれませんし、あとは委員さんのほうから、こちらの内容に興味があるという場合は、お席のほうもご準備いたしますので、ぜひお声かけいただければと思っております。

あわせて、資料6なんですけれども、先ほど少しご紹介しておりました第2層の生活支援コーディネーターの活動報告ということで、上半期に社会福祉協議会のフェイスブックで載せさせていただいたものです。今回、詳細説明しなかったものもあと二つ載っておりますので、後ほどご覧をいただければと思います。

私のほうからは以上です。

【会長】

ご質問、ご意見、いかがでしょうか。

コマーシャルさせていただきますと、私どもの研究所も区と共催で定期的に様々な公開講座というのを北とぴあでさせていただいているんですが、ちょうどこの11月26日の少し前なんですけれども、22日にさくらホールで孤立、孤独をメインテーマとした公開講座をさせていただきたいと思います。先ほど小原さんにもお願いしていたんですけれど、ぜひまた、この26日の前座になるかもしれませんが、ご関心ある方、来ていただければありがたいと思いますので。どうしてもテーマが孤立、孤独となりますと、通常私どもの研究所は健康長寿の秘訣的な公開講座なので、そうすると一般の住民の方が来ていただけるんですが、こういう孤立、孤独を前面に出しますと、むしろ皆様のよ
うな支援者の方のほうに刺さるテーマかなと思っていまして、今回少し、ターゲットの違うようなところで、我々もどのくらい来ていただけるか非常に心配なところがございまして、ぜひまた、できましたらチラシとかも差し上げたいと思いますので、また併せて両方の講座にご参加いただければと思います。22日でございます。よろしくお願
いいたします。

ほかはいかがでしょうか。

【委員】

赤羽ベーゴマクラブです。

こちら、事例のほうに挙がっていた畑隊の方ですね。社協さんにつながる前に、実は僕も集まりがあつて、畑隊の方と地域の活動をされている方でちょっと飲み会みたいなのをやりませんかということ。

やっぱり北医療センターは大きいですから、そこが社会福祉関係に対してすごく興味を持ってくださって、総合診療科の方々が積極的に今回、地域との関わりを持ってないかという姿勢で来られていたので、なかなか医療の方々と福祉の方々と、特にこういう急性期の病院の方々と積極的な関わりを持つということは非常に難しいんじゃないかなと僕は感じて、考えていたので、こういう機会になったということはすごく素晴らしいな
と思っているので、ぜひこのチャンスを社協さんとか委員の皆さんが生かし切っただけ
けるとありがたいなと思っております。

以上です。

【会長】

ありがとうございます。これは本当にいいというか、もう最前線の取組かなというように私は拝見しておりました。これはいわゆる、今、欧米なんかでは少しずつ広まってきています社会的処方というような取組かと思うんですね。医療機関で少し気になる患者さん、例えばメンタルですとか、あるいは様々な問題を抱えている患者さんで、お薬だけでは対応できない人が多々いると。いわゆる専門職のリハビリだけでも対応できないし、それならその人が例えば農作業が好きならガーデニングとかファーマーなんかを紹介するですとか、あるいはものづくりが好きならそういったところに紹介するみたいなところで、非薬物療法を医療機関から紹介するというようなシステムというのが広がってきているんですけども。

今のところ、まだどういう関係性でどういう取組を共同されるかというのは、まだ分からないかなと思うんですが、行く行くはやっぱり様々な多様な通いの場に、患者さんの中でちょっとこの方は薬よりも通いの場に通って何か社会参加するほうがいいねというようにときに、ドクターのほうからも背中を押していただけるようなラインというのができるということも大事ですし、また逆に、多様な通いの場で様々な活動をしている方からすると、メンバーの中でちょっと心配な人が出てきたりした場合に、包括さんに相談すると。じゃあ、その包括さんが誰に相談したらいいかというようにときに、やっぱりこういったそのコミュニティーのことを理解されて、積極的にアプローチしていただける医療機関の先生方と連携するというのは、非常にお互いにとってウィン・ウィンかなと思いますので、ぜひちょっとこういった活動をうまく関係性ができるように、ちょっと育てていただければと思います。

うちの研究室のちょっと若者も一緒に、自ら何か北区の住民でちょっと飛び込ませていただいて、委員のお知恵を、ご指導をいただいている者もおりますが、ぜひよろしく願いいたします。

ほかはいかがでしょうか。

私のほうからも非常に画期的な事例かなと思って拝見していましたのが、レコードを楽しむ会ですかね。これ、確かに音楽というのは結構世代をつなげるというふうに言いまして、また、昭和レトロブームというのも今あるんですよ。若い世代が我々からすると何か時代を70年代フォークとか言われたり、あるいは美空ひばり、誰やと言って隔絶の感がするんですけど、今の若い世代はY o u T u b eを見ていて、かえって古い

音楽ですとかファッションというのを分かって、それがまたテレビなんかでもかなり今、取り上げられているところがあるかと思うんで、そういう意味では、本当にこういうレコードとか音楽を通して世代をつないでいくような試みというのは、非常に期待したいなというところがあります。

やっぱり、こういうレコードを楽しむ会で来られている方というのは、音楽好きとかレコードをやりたいとか、主体的に来られている方だと思うんですね。ですので、行く行くはこのレコードを楽しむ会の中で、メンバーの方々にもっとこう、これを基盤としたアイデアを出してもらおうと、例えば飾りつけはどうしたらいいのかとか、コーヒーは本格的なものを入れたほうがいいんじゃないかとかですね。何か、いろんなアイデアが多分皆さん集まっている中で出られてくると思いますので、恐らくマニアとか好きな人の知識とか、知恵とか、アイデアをうまく活用されると、新しく、我々、健康とか福祉の者が発想していないような、そういうところでやっていけるんじゃないかというふうに思いましたので、ぜひまたこういった機会をこれに関してもまた経過報告をしていただければありがたいかなと思いました。ありがとうございます。

ほか、よろしゅうございますか。何かありますでしょうか。

まだ、今日ご発言いただけていない委員の方もいらっしゃいますので、一言ずつでも、ご感想をいただければと思います。

【委員】

シルバー人材センターです。

シルバー人材センターは、就労をメインにやっているところですがけれども、一応同好会的なものでコーラスだったりとか、写真だったりとかということもやっている状況です。また、お仕事で訪れたご家庭などからで、お客様の变化に気づいて包括のほうに連絡、情報提供などもさせていただいているというところですので、私としてもここで得たことについて、機会を捉えて会員の皆さんにもお伝えできればいいというふうに思っております。ありがとうございました。

【会長】

ありがとうございます。シルバー人材、非常に大事な、先ほどから出てきました男性の社会参加の場としては期待できるんじゃないかなと。

以前、私どもが東京都のシルバー人材センター連合と一緒に調査しまして、実はシルバーの会員さんは平均大体七十四、五歳ぐらいですかね。

【委員】

北区は75です。

【会長】

75ですか。その中で見かけ上、元気に思えるんですけども、やっぱりフレイルな方というのは1割ぐらいいらっしゃる。プレフレイルですね、フレイル予備軍まで言いますと、もうほぼ半分以上が引っかかってくるというような。

そういう意味では働いて、何とか健康を保っていらっしゃるという部分もあるのかもしれないし、一方で転倒の予防とか、シルバー人材さんも会員さん、働くシルバーさんのフレイル予防というのも非常に興味を持っているというか注目されていて、どのシルバーからも相談を受けることもございますので、またいろんな意味でシルバーさんの会員さんとの関わりというのは、この会議でも重要になってくるかと思います。ぜひ、またご意見いただければと思います。

じゃあ、委員、お願いいたします。

【委員】

北区の北医療センターがされている取組み、今、総合医療、総合診療科という考えの中では医療として治す、治していく、治療していくという中で、社会的に壊れて、壊れてではないですが、社会的な支援でそういう診療を行っていく、治療を行っていくという、重要な役割ですので、こういう取組を私たちはまた連携しながら、取り組むことを一緒にやっていくということは大事ですね。そういうふうに思いました。

【会長】

ありがとうございます。本当に医療との連携というのは、多様な住民さんが今度社会参加となってくると、いろんな、ほとんどの高齢者の方というのは慢性疾患も持っていますので、そういう意味では医療と連携ということもこれから重要だと思います。ぜひ、またよろしくお願いいたします。

それでは、委員、お願いいたします。

【委員】

大変貴重な、いろいろ知ることができましてありがとうございます。

歯科医師会のほうでは、今ここに出てきた中では、なかなか生活支援コーディネーターのところに関わることは、関わる自体が難しいのかなとは思っておりますが、現在、認知症カフェなどでは歯科医師会のほうも参加させていただいていまして、今後、いろ

いろな場面で、歯科衛生士会などとも協力して、歯磨きですとか口腔ケアに関しての何かイベント的なときに参加させていただくとか、そういった関わりを持っていければよろしいのかなと思います。

以上です。

【会長】

ありがとうございます。

では、委員、お願いいたします。

【委員】

北区のまちづくりも、今日お伺いした地域の課題の中で共通する部分が非常にあるなということでお伺いをしておりました。

北区のまちづくり、公民連携のまちづくりということで、地域の担い手となっている方々のご協力をいただきながら、一緒にまちづくりを進めていこうというふうな方向で今は進めておまして、やはり地域の中で核となる担い手の方をどう発掘していくか、また、その担い手の方々とつながりをつくっていくかということは非常に課題で、共通、福祉的な観点とまちづくりの部分も含めて共通の課題があるなということ、改めて認識をさせていただいたところです。そういった意味では、同じ共有できる部分を共有しながら、その関わりを含めて連携できる体制が構築できればなというふうに思っております。

以上です。

【会長】

ありがとうございます。先ほどからの議論も出ておりましたけれども、健康とか福祉を前面に出すと、それに関心ある方しか賛同されないと思うんですね。その辺りをやっぱりまちづくりとか、この北区を本当にいろんな方面から大事にしている方を巡り会うということでは、まちづくりのほうのご担当の役割というのを非常に期待したいところがあるかと思えます。

今日、そういうお店との連携とかいうのもありましたけれども、最近、ほかのトレンドといたしまして、空き家の再利用と申しますかね、それが非常に社会的な問題としても喫緊の課題になっているかと思えます。私も京都にあります実家の空き家を再利用してもらっているんですが、こういった空き家を使って様々な取組をするというような事例も増えてきておりますし、この辺り、区のほうも地域貢献型空き家利活用モデル事業

ですかね。こういった単に人に貸すだけじゃなくて、何か地域に開放することによって、それに対して区のほうもいろんな応援をされているというような仕組みもあるかと思えますので、この辺りもぜひまた何か今度でも情報提供していただければありがたいかなと思えますので、よろしく願いいたします。

それでは、ひとまず私のほうの議論のほうは、ひとまずこれでございしますが、事務局のほうから何かいかがでしょうか。

【事務局】

では長寿支援課のほうからお手元にお配りさせていただきました講演会のPRを最後にさせていただきます。

9月にヒアリングフレイルに関する講演会と、あと認知症の普及啓発の講演会を開催させていただきます。ヒアリングフレイルのほうは、昨年、医師会主催のほうで、区民公開講座ということで難聴の講演会を開催されたときも大変好評だったんですけど、今回、区としては初めてのヒアリングフレイルの講演会ということで、3地区で各1回ずつ、医師会の耳鼻科医会の先生の皆様のご協力の下、開催させていただきます。8月13日からのお申込みのほうを開始しております。ぜひたくさんの方に聞いていただけたらというふうに思っております。

今回、当日、先生のお話以外に、高齢福祉課のほうで今年度から実施しております補聴器の助成制度のPRですとか、あと耳の健診の周知のほうも一緒にさせていただく予定でございますので、ぜひ皆様のネットワークでお広めいただけたらと存じます。

また、9月25日、9月がアルツハイマー月間、認知症月間ということでPR活動に力を入れさせていただいている時期でございます。今回、9月25日に、東京都で認知症希望大使ということで、実際地域でチームオレンジの活動をされていらっしゃる方をお招きしての講演会を開催させていただきますので、ぜひこちらもご参加いただければと思えますので、どうぞよろしく願いいたします。

以上でございます。

【会長】

事務局お願いします。

【事務局】

本日は皆様、どうもありがとうございました。

このおたがいさま地域創生会議は年2回実施しておりますので、次回の2回目につき

ましては、ずっと先なんですけれども令和7年3月くらいを予定しています。この会議の後、いろんな地域の中での取組ですとか、生活支援コーディネーターの取組をまたご報告させていただければと思っております。開催期日が近くなりましたら改めてご案内を差し上げたいと思いますので、委員の皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

以上でございます。

【会長】

それでは、委員の皆様、ご協力ありがとうございました。また、3圏域の地域包括ケア連絡会にご参加を希望いただける方は、事務局までお申出ください。

まだまだいろんなコロナの影響ですとか、熱中症の問題とかで活動に影響が出る場合もございますが、地域の団体の皆様、企業や商店の方々にも様々なアイデアをいただきたいと思っております。

また、今日、大勢、傍聴で見学に来ていただいている皆様にとっても、今日の議論を踏まえて、何かもしまたフィードバックしていただけることがあれば、事務局のほうにご提案いただくとありがたいですし、また逆に、次回の会議に向けて、こういったことを議論するのがいいんじゃないかといったようなこと、ご提案があれば。この会というのはほかの協議会と違って、ほかの協議会は介護保険の法律にのっとっていろいろ粛々とやるテーマが多いですが、一番自由闊達にこれからの北区をどうまちづくりしていくかというようなところに関する会議ですので、ぜひ傍聴の皆様のアイデアとかご意見なんかもまたいただければと思っております。そのようなことで、これからも続けてまいりたいと思っております。

閉会に当たりまして、副会長から一言ご挨拶をお願いいたします。

【副会長】

皆さん、どうも長い時間、大変お疲れさまでした。また、本日、会議にご参加いただきましてありがとうございます。それから報告いただいた皆様からは貴重なご意見をいただきました。改めてお礼を申し上げます。

まず、ちょっと自分の感想いいですか、時間。先ほど会長からも出ましたけど、事例にあったレコードを楽しむ会、個人的に大変興味を引かれました。自分は昭和の系統の人間で、あんまりスマホのゲームとかをやらないので、そういうイベントがあっても多分足を向けないと思っておりますけれども、こうした自分が経験したことがあるものであれば、自然と興味が湧いていくのかなと思っております。

報告書のところでは、いろいろなうんちくとかエピソードがあふれていたというふう
に書いてありましたが、私はそれほどこだわりがある人間じゃなくて、昔アニメオタ
クだったような時期もありますので、ジャズとかそういう高尚なものはないんです
が、ただそういった場が、自分が何かを語れるような場があれば、きっと居心地が
いい場所になるんだろうな、そのように感じました。大変いい取組だなというふう
に感じております。

この地域創生会議では、高齢者あんしんセンターや生活支援コーディネーターなど、
こうした活動について情報を共有して、高齢者だけではなくて、その家族や介護者
も含めて、住み慣れた北区で安心して自分らしい生活ができるよう取組を図って
いくことを目的としていますけれども、ご紹介いただいたような工夫を凝らした、
人と人が関わるきっかけづくりが区内の至るところで展開されること、これは
大変すばらしいと感じるとともに、今後の活動にも大いに期待をしております。

少し堅い話になってしまいますが、北区では地域包括ケアシステムの構築の基本
となる地域包括ケア進計画を定めてございますが、会長をはじめ、多くの方のご
意見、ご助言をいただきまして、今年度から8年度までの新たな計画を策定しま
した。その中では19の日常圏域におけるこの取組の状況を紹介してございま
すけれども、今回の計画では、圏域ごとの目標と評価方法というのも記載させ
ていただいております。そして、その目標には、孤立をさせないとか、皆が
集まる場所とか、多様な人の交流といった、そういった言葉がたくさん出て
いるように、人と人がつながる機会をつくるのが一番の共通の目標となつて
ございます。

そのためには、高齢者あんしんセンターをはじめ、町会や自治会、そして商店街、
民生委員、ボランティア団体、福祉事業者の方といった、地域にいる様々な
方の強みを持ち寄って連携させていくことが求められていると思っております。
区としては、この地域創生会議をはじめとした様々な機会を捉えながら、本
日ご紹介いただいた事例、また、あんしんセンターの生活支援コーディネ
ーターの認知度向上の話もありましたけれども、こうした情報ですとか課題、
これについて共通認識が持てるよう、それぞれの活動を有機的につなげな
がら、この地域包括ケア推進計画を進めていきたいと考えてござ
います。

また、全体を通してですけれども、高齢者福祉という分野に限らず、これは
もう子どものほうも必要だよとか、障害者も必要だよという話は、これは従
前までされてい

ましたけども、さらに枠が広がって、今は町会・自治会さんは当然ですが、商店街のその力の活用ですとか、また会長からもあった空き家の活用、そういった様々な視点からアプローチしていかないと物事を解決していけない、そういう社会になったというか、もともとそうだったのかもしれませんが、ようやくそうしていかなきゃならないというところに、我々の認識が追いついてきたのかなというような気もしてございます。

そういった意味では、こうした場は大変貴重なものになると思います。今後の区の福祉施策についても、皆様のお力、ご協力をいただけるようお願い申し上げまして、私の挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

【会長】

それでは、これもちまして第1回のおたがいさま地域創生会議を終了いたします。

皆様、ありがとうございました。お疲れさまでございました。